

UP! Uozumi-higashi Press

魚住東中トリプルD < Dream, Design and Do it >

2019.1.7(月) 第9号

あけまして
おめでとうございます

< 新年のごあいさつ >

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。
本年もよろしく願いたします。

平成三十一年元旦 校長 安藤 正昭



平成最後の年、平成31年、2019年が始まりました。本日よりいよいよ3学期となります。新年が始まるにあたり、みなさんはどのような目標、『一年の計』をたてたでしょうか。

お正月、私は毎年箱根駅伝を見るのを楽しみにしています。他のことをしているときも、とりあえずテレビはつけっぱなしで箱根駅伝の映像と音声が流れています。ただ学生さんが走っているだけなのに、私にはおもしろいんですね。それも関西の大学は出ていないのに…。

他の高校、大学、実業団の駅伝もよくテレビで見るとはありますが、私は箱根が一番おもしろく感じます。なぜかという、距離が圧倒的に長いんです。二日目の復路になると一日目に既に百km以上走っているの、結構な差が出ます。今年の箱根駅伝は最終的にトップと最下位の大学の差は約40分にもなりました。

途中、前を走っている選手が全く見えない中、いずれ視界に入ってくるだろうと懸命に前を追いかけている選手の姿、逆にたすきを受け取ったときには相当な差があったにもかかわらず、後ろからひたひたと選手が追いかけてくるプレッシャーと闘いながら必死で逃げる選手の姿。何十台ものテレビカメラから伝わってくる選手たちの必死の表情には、持てる力を出し切ってやろうという気迫がひしひしと伝わってきます。

結果は前評判を覆し東海大学が優勝、青山学院大学が2位、東洋大学が3位。学生駅伝の3大大会である出雲駅伝、全日本大学駅伝を優勝し年間3冠と箱根5連覇を目指した青学大は優勝を逃しました。レース前、青学大の原監督は今年のチームを「史上最強軍団、間違いなく優勝できる。」と自賛されていましたが優勝できませんでした。東海大は打倒青学大を目指して、年末の二ヶ月間は選手曰く「地獄のような練習だった」とのことです。

ちょっとした心の隙と、その隙を突くための猛練習。青学大の選手に慢心があったとは思えませんが、何事も諦めないで努力することが夢に繋がることを示してくれた今年の箱根駅伝でした。



ミニミニ英語知識

a wild boar

今年の干支は『亥年』ですね。亥とはイノシシのこと。

イノシシを英語で wild boar と言います。

目標に対してがむしゃらに(時には向こう見ずに)猛烈に突き進むことを『猪突猛進』と言いますね。『猪突猛進』することを make a headlong rush と言います。